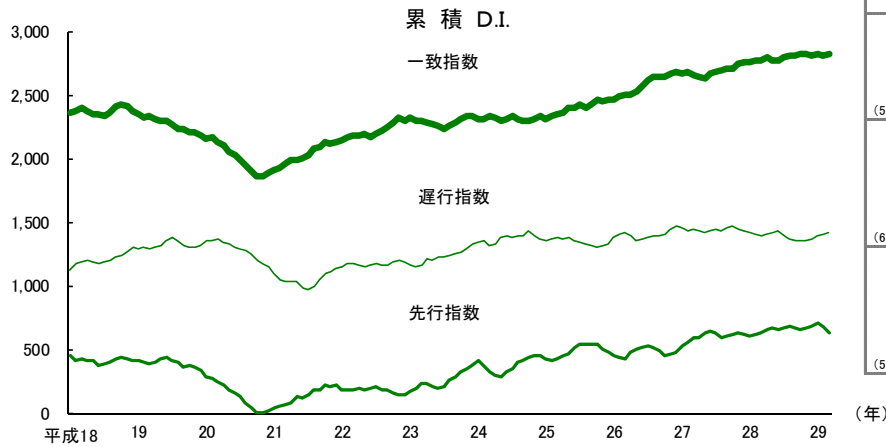


1. 景気動向指数

平成 29 年 8 月の景気動向一致指数は、有効求人倍率、鉱工業生産指数、輸入通関実績（実質）、雇用保険受給者実人数（逆）の 4 項目がプラスとなり、全体では 66.7%と 2 カ月ぶりに 50.0%を上回った（6 項目のうちプラス 4、マイナス 2）。

先行指数は、新規求人数（パート含む）、新車登録台数（乗用車）、鉱工業在庫率指数（逆）、新設住宅着工戸数、ホテル・旅館宿泊客数の 5 項目全てがマイナスとなり、全体では 0.0%と 2 カ月連続で 50.0%を下回った（5 項目のうちプラス 0、マイナス 5）。

遅行指数は、鉱工業在庫指数、家計消費支出（勤労者世帯）、消費者物価指数（持家の帰属家賃を除く総合）の 3 項目がプラスとなり、全体では 60.0%と 5 カ月連続で 50.0%を上回った（5 項目のうちプラス 3、マイナス 2）。



採用景気指標	
先行指数 (5項目)	1. 新規求人数(パート含む)
	2. 新車登録台数(乗用車)
	3. 鉱工業在庫率指数(逆)
	4. 新設住宅着工戸数
	5. ホテル・旅館宿泊客数
一致指数 (6項目)	1. 有効求人倍率
	2. 百貨店・スーパー販売額(実質)
	3. 鉱工業生産指数
	4. 鉱工業出荷指数
	5. 輸入通関実績(実質)
	6. 雇用保険受給者実人数(逆)
遅行指数 (5項目)	1. 鉱工業在庫指数
	2. 家計消費支出(勤労者世帯)
	3. 消費者物価指数 (持家の帰属家賃を除く総合)
	4. 資本財出荷指数
	5. 貸出約定平均金利

注) 今月の累積DI=前月の累積DI+(今月のDI-50)
一致指数には1,000、遅行指数には600、先行指数には500をそれぞれ加算してある。
資料)宮崎県県民政策部統計調査課

景気動向指数：景気に敏感な経済指標を複数取り上げ、それぞれの値を 3 カ月前の値と比較して増加したものの割合を出したもの。景気の現状を表す一致指数と、一致指数に数カ月先行して動き、景気の先行きを表す先行指数、数カ月遅れて動く遅行指数の 3 つがある。一致指数が数カ月連続して 50%を上回った場合、景気が上昇局面にあることを示す。

景気動向指数の算出方法

$$\text{景気動向指数} = (\text{プラス項目数} + \text{横ばい項目数} \times 0.5) \div (\text{プラス項目数} + \text{横ばい項目数} + \text{マイナス項目数}) \times 100(\%)$$

2. 鉱工業生産

8 月の鉱工業生産指数は、92.1 で前年同月比 5.0%減と 8 カ月連続で前年を下回った。

主要業種別にみると、化学（同 0.1%増）、繊維（同 2.7%増）は前年を上回ったものの、電子部品・デバイス（同 10.6%減）、食料品（同 2.6%減）は前年を下回った。

3. 建設関連

① 公共工事

10 月の公共工事請負金額は、120 億 1,100 万円の前年同月比 5.2%増と 2 カ月連続で前年を上回った。

発注者別にみると、国が同 43.4%減、県が同 40.0%増、市町村が同 8.2%減、その他（独立行政法人等）が同 5.3%増となった。

② 着工建築物

9 月の着工建築物は、棟数 545 棟で前年同月比 3.2%増、床面積は 11 万 8,810 m²で同 27.3%増となった。

内訳をみると、居住用は棟数同 6.5%増、床面積同 12.2%増となり、非居住用は棟数同 7.2%減、床面積同 48.3%増となった。

非居住用の床面積を用途別にみると、鉱工業用同 221.6%増、商業用同 21.8%増、サービス業用同 48.9%減となった。

③ 住宅着工

9月の新設住宅着工戸数は、637戸で前年同月比6.2%増となった。

利用関係別にみると、持家は同6.0%増、貸家は同9.7%減、分譲は同73.4%増（マンションは前年0戸→本年59戸、一戸建てが同64戸→52戸）となった。

4. 個人消費関連

① 百貨店・スーパー販売動向

9月の百貨店・スーパー販売額は、51億200万円で前年同月比1.7%減と6カ月連続で前年を下回った。

商品別では、衣料品は9億9,900万円で同3.8%減、飲食料品は26億9,500万円で同4.3%減、その他計は14億900万円で同5.3%増となった。

② 乗用車新車販売動向

9月の乗用車新車登録台数は、2,006台で前年同月比1.7%増と11カ月連続で前年を上回った。

車種別にみると、普通車は1,009台で同3.8%増、小型車は997台で同0.4%減となった。

5. 空港乗降客数

9月の宮崎空港乗降客数は、24万2,047人で前年同月比0.1%減と8カ月ぶりに前年を下回った。

乗客数は12万2,075人（前年12万2,509人）と減少し、降客数は11万9,972人（前年11万9,825人）と増加した。

6. 消費者物価指数

9月の宮崎市の消費者物価指数は、101.5で前年同月比0.8%上昇した。

これを費目別にみると、光熱・水道（同6.5%増）、被服及び履物（同1.7%増）、教育（同1.5%増）など7費目が上昇した。

7. 企業倒産

10月の企業倒産件数（負債額1,000万円以上）は3件で前年同月比25.0%減と3カ月連続で前年を下回った。負債総額は3億7,600万円で同15.0%増と3カ月ぶりに前年を上回った。

8. 雇用情勢

9月の有効求人倍率は、前月より0.01ポイント下回る1.39倍で、2カ月連続で低下した。

新規求人数は、10,759人で前年同月比7.7%増となった。

宿泊業、飲食サービス業は60.3%増、医療、福祉業は9.3%増、学術研究、専門・技術サービス業は195.8%増など9産業が増加となった。一方で、製造業は14.7%減、情報通信業は39.5%減など7産業が減少した。

雇用保険受給者数は、4,568人で同8.5%減と64カ月連続で前年同月を下回った。

〈今月のトピックス〉～ 宮崎県の工場立地件数

宮崎県の平成 29 年上期の工場立地件数は 8 件で、前年同期比で 2 件増加した。内訳をみると生産用機械器具 3 件、食料品 2 件、繊維工業、木材・木製品、化学工業が各 1 件となっている。

